

酒々井町

郷土研究会会報

第136号

平成22年4月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

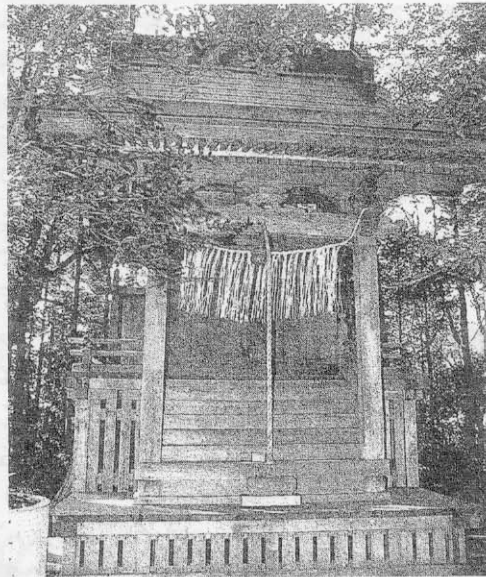
神明大神社の年中行事

石井 康子

神社は、上本佐倉六九七番地にあり、正式には神明大神社ですが、一般には神明神社と呼ばれています。主要建物として本殿と拝殿があります。いつ建立されたかわかりませんが、境内の石碑には大同三年（平安時代）という文字が刻まれており建立時期と関係しているのかなあと

思います。現在の本殿は昭和五十九年に改修したものです。祭神は天照大神で合祀社として八幡大神社、春日大神社、疱瘡守護社、子安神社、稻荷社、石尊大権現、甲子塔があります。なお鳥居脇には当町にただ一基しか無い愛染明王の石仏が祠に納まっています。この神社は上本佐倉の中宿、新宿、清光寺作などの鎮守で、氏子は昭和

五十四年当時は八七戸でしたが今は四一戸と段々少なくなってきました。



神明大神社

年中行事は左記の通りです。

一、春祈禱 二月下旬

本格的な春の訪れを前に家内安全五穀豊穡を祈ります。

二、宮薙ぎ 七月十五日

夏草を薙ぎ抜いた夏の無病息災を祈る。

三、風祭り 八月下旬
台風シーズンを前に、その災難から免れることを祈る。
四、幟立て 十月十四日
幟を立てお祭りの準備をする。
五、祭礼 十月十四日・十五日
子供輿があり、昭和三十年頃まで担ぎ、終戦直後は山車も出て最も盛んに行われました。その後担ぐ子供も少なくなり廃止されてしまいました。昭和五十九年、本殿改修が行われ、子供会が中心となり一年だけ復活しましたが、その後は拝殿の中に安置し祭礼の時だけ飾るようになってしまいました。幟は子供輿が盛んの頃、神社に続く道路の入口に二階まで届く程の高さに立て、その昔、下の台は重く牛車で運んだそうです。これも段々立てる人も少なくなり、今は神社の鳥居の側に小さな幟を立てるようになってしまいました。各家庭ではお赤飯を蒸し、自分の家で収穫した野菜を煮、祝い膳を囲みます。この事は現在も多くの家庭で継続されています。

六、幟倒し 十月十六日

幟を収納する。

この日に会計報告をして一年間の当番の交替を行います。

七、神の御立ち 十月三十一日

出雲大社で行われる「八百萬の神々の集い」に旅立たれる神明様の門出をお祝いする。

八、神の御帰り 十一月三十日

一ヶ月間の旅を終えての御帰りを お祝いする。

祭事には神社の総代さんと一年交替の当番が本殿の扉を開け、お参りに来る方を拜殿で迎え、茶菓の接待をします。時代とともにお参りに来る人も少なくなり、最近宮薙ぎ、幟立て、幟倒し以外は数人になってしまいました。

大きな神社は初詣者も年々多くなつてきていますが、地元の鎮守様にお参りに行く人は逆に少なくなつてきています。皆で我が故郷の鎮守様を大切に守っていききたいものです。

伊藤左千夫の

ふるさとを歩く

白鳥 昭興

平成二十一年も残りわずかとなつ

た十二月九日、参加者総勢三十名はJR酒々井駅を後に佐倉で総武本線に乗り換え、ワイワイガヤガヤ童心気分のなか成東駅に到着。

まずは、徳川家康ゆかりの寺「光明寺」へと足を運ぶ。承和三年(八三五)円仁が開山した古刹で、本尊は阿弥陀如来である。家康が東金への鷹狩りの折に立ち寄ったと言われており、また、上野寛永寺住職の隠居寺でもあったことから「葵」の御紋が付いている。本堂には九十九里七福神巡りの一つである「寿老人」が置かれていて、ご本尊参拝に合わせ健康と長寿を祈願する。

次に向かったのは「新泉観音堂」である。光明寺の別院となつていて病魔退散、財宝来福の神である「毘沙門天」を安置。そこそこに拝観して次の山武歴史民俗資料館へ。この資料館は、昭和四十七年に歌人・小説家伊藤左千夫の生家に隣接して建設されたもので、奥に生家、茶室、土蔵などがある。

一階は企画展示室、二階には伊藤左千夫の生涯を、作品、遺品、同人達との関わりを示す資料等が展示されている。資料館職員山口直人氏のユーモアに富んだ説明に皆熱心に聞き入っ

ていた。

伊藤左千夫記念公園で昼食の後、この日最後の見学場所は「浪切り不動院」である。江戸時代、漂流した漁船を寺の灯りが導き、無事に難を逃れたことから「浪切り不動尊」と呼ばれ親しまれている。本尊は不動明王で天平八年(七三六)行基菩薩が当地の鎮護のために造作したものである。

本堂までの急な八〇段の石段はかなりきつい。肌寒く、はつきりしない空模様の日であったが予定より早く帰路に着くことができ意義ある名勝探訪の一日でした。



浪切り不動院

初詣 鎌倉方面

寺本 恵美

一月二十四日、酒々井の朝はとても寒く、でも天気は晴れです。

JR酒々井駅には多数の人が集まっています。会長の新年の挨拶の後、乗車。途中、大船辺りで白い雪をかぶった富士山を見ることができ、幸先が良いように思いました。

鎌倉駅から家と家の間を、ゆつたりと走る江ノ電で長谷駅へ。ここからは車と人、人を掻き分け、変わった店を覗いたりしながら、鎌倉大仏へ、大仏の傍に寄って頬を見ると、つすらと金箔の跡があり、創建時にはさぞかし眩く、神々しかったことと思われました。また、当時は堂があったらしく、ここまで津波があり、堂だけが流され、四つの石台が残されています。

鎌倉駅にもどり鶴岡八幡宮へ、こも人、人、人で参道も思うように歩けません。やっと境内に入りサクサクと砂利石を歩いて、公暁が隠れていたと言われる「イチヨウウの木」を見ながら急な階段を上り、右大臣・左大臣が守っている正面の門から入り、今年一年の計をお願い

しました。

鎌倉土産を買いそれぞれ家路につきました。とても楽しい一日でした。



高德院 鎌倉大仏

「七草粥を食べる会」

に出席して

上村 征四郎

二月十日(水)酒々井町中央公民館講堂で開催された「七草粥を食べる会」に初めて参加させて頂いた。

そしてこれを機会に「酒々井町郷土研究会」へ入会することになった。本音を言えば粥への願望が会員の末席へと後押ししたことは否めない。さて、当日会場に入ってまず目を見張ったことは、出席者の数の多さと、卓上の賑やかさである。主催者

の方々には失礼ながら、私はもつと小人数で、お粥とお茶だけの簡素なものと思っていたのと大違いである。

いわば単品の「七草粥」は、今まで何回か食したことがある。しかし、主役の七草は自分で摘み取ったものではなく、スーパーで七草粥のセットを買って、自宅で粥に煮込んだものであった。従って、今回の会で供されたフル・コースともいべき本格派の七草粥には初めてお目にかかった。七草粥をはじめ、桜むすび、煮もの、酢のもの、揚げもの、和えものなど計八品、素材で数えれば四十種近い葉根菜や穀物を使った手の込んだ料理は、嬉しい驚きであった。しかも、これらの素材のほとんどは会員の方々が酒々井町内で採取されたと聞く。まことに有難いことである。

ものの本によれば「七草」とは「正月七日の朝、七種(ななくさ)粥を食して祝う行事」とある。その由来については、日本古来説、中国からの伝来説とかに加え、粟、黍、稗、胡麻等の「七種の穀物」の粥があったことや「七種の草」の種類にしても時代や地方により異なっていて、

今、我々が粥にしている七種の野草（セリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ、スズシロ）と違うものもあるとしている。又、同時に豊作となるように、作物の害敵である鳥を追う「七草ばやし」を歌うことも大切な行事としている地方もある由。

今回は、伝統的料理の他に「七草ばやし」をも教えてもらうという貴重な経験をさせて頂いた。次回また参加出来れば、「七草ばやし」を歌いながら、自然の恵みと準備された方々に感謝しながら、食べ物の一つ一つ、もっとゆっくりと丁寧に心から味わいたいと思っている。

料理はもちろん席の配置や箸置、箸袋、名札などにいたるまで、細やかな気配りが感じられ、風雅な会の印象を忘れ難いものにした。近隣の市町村で、酒々井町のこの会のようない行事が開催されているかどうかは、不勉強で知らないが、人口や町の広さなどちようど酒々井町程度の規模だからこそ、（関係者のご努力はもちろんのことながら）この会が維持できていると思うのは独断すぎるであろうか。

何はともあれ、「七草粥」の素材を身近で採取できる豊かな自然環境とこのような会を催す伝統を守り伝えていくことの大切さを改めて痛感している。



七草粥を食べる会

にて詠む

丸山 緑酔

- 大鍋に七種の若菜香を煮込み
- 里山に若菜を摘みて粥供ふ
- 箸受けに七草もてなす心込め

七草粥を食べる会を終えて

野草部

「毎年参加するのを楽しみにしていますよ」「一度参加してみたかった」「久しぶりに参加しました」という方々をお迎えしました。

岡田会長の挨拶が終わると同時に七草粥が運ばれ、会食の始まりです。今年も、スズナ・スズシロは会員の方の畑で採りたてをいただきましたが、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザは自生のものを摘んできました。

大勢の方々のご参加があり、材料の提供、寄せ植え作り、摘み草、買物、調理、会場設営等多くの皆様のご協力をいただいて、和やかに会食することができました。感謝しております。

なお、残念なこと、当日臨時町議会が開かれ、参加予定の町長はじめ関係者の方々が参加できませんでした。

会計報告		
<七草粥を食べる会> (22.2.10)		
参加者	77名	来賓等 13名 合計 90名
収入	71,600円	
会費	800円×77名=61,600円	
参加費	10,000円	
支出	66,420円	
材料費	30,587円	
諸経費	35,833円	
差引	5,180円 (野草会計へ)	

酒々井町郷土研究会 平成22年度役員・運営委員名簿

職名	氏名	電話
会長	岡田 利光	
副会長	高木 正浩	
	寺本 恵美	
会計	丸山 正義	
	(兼任) 久我 かず子	
監事	行武 政市	
	執行 正勝	
運営委員(総務部)	久我 かず子	
	* 白鳥 昭興	
(広報部)	穂満 弘道	
	木村 雍子	
	前田 國廣	
(研修部)	(兼任) 寺本 恵美	
	桂 啓子	
	斉藤 ヨシ	
	(兼任) 執行 正勝	
	浜口 信義	
	古川 好夫	
	藁輪 光正	
	(兼任) 行武 政市	
	* 進藤 浩一	
(野草部)	犬島 正子	
	石井 康子	
	大沢 博	
	近田 トメ子	
	* 浅香 征子	

(注)*印の3委員は、21年12月の運営委員会で選出し、委嘱しました。

第三十四回定期総会報告

平成二十二年一月三十一日午後一時三十分より中央公民館研修室において定期総会が開催されました。岡田会長挨拶、そして小坂町長の来賓ご挨拶を受けた後、平成二十一年度事業報告と決算報告が承認され、続いて二十二年事業計画案、予算案及び郷土研究会会則の一部改正案が提案通り承認されました。

総会は、このあと進藤浩一、浅香征子、白鳥昭興の三氏を新たに運営委員に委嘱したことを報告し、閉会しました。

町長ご挨拶要旨 「郷土研究会は、町でも長い歴史を持つ会で、毎年、活動を通じて町の歴史をさらに深めて頂いている。町では、これから社会教育課を中心、町の文化と品質を高めることにつながる町の顔造りを始めようとしていく。本佐倉城跡だけでなく、それ以外にも町の特色を外に発信し、付加価値をつけた酒々井町のイメージ造りを図っていきたい。

皆様様の活動を通じてご支援ご協力を頂くとともに、この会が、さらにご研鑽を積まれ、ご活躍されることを期待します。」

平成22年度 事業計画

事業名	回数	1期		2期		3期			4期				
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 定期総会	1	○											
2 会報発行	4	○			○			○			○		
3 講座・学習会	郷土史講座	1						○					
	町内史跡巡り	1				○							
	史談会	8		○	○		○	○	○		○	○	○
4 研修・見学会	県外見学会	1				○							
	日帰り見学会	2	○								○		
	名勝探訪	4			○			○			○		○
5 野草の会	七草粥を食べる会	1		○									
	野草観察会	2				○				○			
6 運営委員会	5	○	○			○			○			○	

見学

案内

春の野草観察会



菊賀神社周辺

四月二十七日(火)

雨天決行

菊賀神社近くの中山谷津、山之田谷津と呼ばれ、豊富な湧水が中川の水源となっている所です。

植物観察とともに、酒々井の自然をご堪能下さい。観察後、交流サロン「井戸端」にて昼食をとります。

なお、雨天の場合は「井戸端」で資料による勉強会を行います。

一泊見学会

南房総方面

五月十一日(火)～

十二日(水)

宿泊 白浜温泉

グランドホテル太陽

電話 0470-38-3331

今頃は、菜の花・キンセンカの盛りでしょうが、私達が出掛ける頃は、満開のカーネーションの花が優しく

迎えてくれることでしょう。

今年の見学会は、県内の館山市と南房総市を選びました。

皆さんには既に出掛けられたことがあるとは思いますが、久し振りに、海あり山あり、名所旧跡の宝庫を振り返って探訪してみましよう。

山頂からの絶景を望む鋸山、関東最古の古刹・日本寺、日本一の摩崖仏があります。

館山市では、青銅仏として東洋一の涅槃仏がある満徳寺に、また産業総祖神の安房神社(安房一の宮)にもゆっくり参拝してきましょう。

夜は白浜の温泉に浸かり、新鮮な魚貝類に舌鼓を打ち、白浜音頭を奏で、太平洋の潮騒を耳に心身ともに命の洗濯をしましょう。

皆さんの参加をお待ちしています。

名勝探訪

北小金方面

六月二日(水)

雨天代替日 六月七日(月)

のんびりと成田線でアジサイの花で有名な本土寺に行きます。また、ひっそりと佇みながら歴史

史の息づかいを聞いてきた古寺を訊ねますので、会員の皆様参加してください。

夕日の沈む印旛沼を眺めながら家路につきたいと思えます。

郷土研

トビックス!

★ 二月三日、酒々井小学校二年生を対象に「昔遊び」を伝える集いがあり、当郷土研からも数人がお手伝いに参加しました。

★ 二月十六日、町社会教育課とふるさとガイドの会からのお誘いを受け、当会の運営委員十余名が千葉市立郷土博物館及び千葉県立中央博物館で、企画展、特別展を見学してきました。

★ 野草部が、昨年行った調査結果を『酒々井総合公園とその周辺の植物』という冊子にまとめました。図書館でご覧になれます。

★ 三月六日、千葉県郷土史フォーラムが開催され、岡田会長が出席しました。県下十三団体が参加し、昨年度の活動状況が発表されました。

<郷土研日誌>

月日	活動内容	参加者
21. 12. 24	会報印刷	5
12. 26	会報発送(第135号)	19
	「七草粥を食べる会」献立会議	3
22. 1. 13	平成21年度会計監査	7
1. 18	定期総会資料の印刷	2
1. 19	運営委員会(総会準備)	19
1. 24	日帰り見学会(初詣鎌倉方面)	32
1. 31	第34回定期総会	70
2. 2	研修部部会	8
2. 3	酒々井小学校で「昔遊び」指導	5
2. 6	史談会(成田参詣記)	22
1. 8~2. 8	七草粥・準備(買物・摘み草等)	18
2. 9	七草粥・準備(調理下拵え等)	15
2. 10	七草粥を食べる会	90
2. 17	広報部部会(会報第136号)	4
2. 23	名勝探訪(大宮方面)・下見	4
3. 2	運営委員会(4~6月期行事)	16
3. 5	会報編集・打合せ、読合せ	6
3. 6	史談会(成田参詣記)	23
	県郷土史フォーラム(於千葉市)	1
3. 9	名勝探訪(大宮方面)	27
3. 11	会報編集・読合せ	6
3. 19	会報編集・校正、読合せ、割付	6
3. 25	会報編集・割付、校正	6
3. 29	会報編集・最終校正	6

町内史跡めぐり

下岩橋・柏木・

中川方面

五月二十三日(日)

小雨決行

町内には九体の双体道祖神があります。近隣の双体道祖神とちよつと形が違う、酒々井町独自の石仏です。今回はその中の六体がある地域を見て回ります。仏閣なども一緒に拝観しますので、多くの方々の参加をお待ちしております。約八キロメートルの行程です。

《観察メモ》

カキラン(ラン科)

初夏から夏にかけて茎の先に野生のラン科のなかでは大きな花を一個前後つけます。花びら(外花被片)は赤色の入った黄褐色という独特な色をしています。この色が秋に実る柿の実の色と似ていることからカキランという名前が付けられました。

昨年の総合公園とその周辺の調査の時見つけました。今回が初めての確認です。カキランのように酒々井町には貴重な野草が生育しています。皆さんも身近な散歩のときに思い



もかけない美しい姿の野草に出会えるかもしれませんよ。



あとがき

冬は暖かいと云われる房総半島。今冬は積ったとはいえぬ程の雪が幾度か降り、寒気暖気もごもで、それが寒い冬だったかと思う気持ち強く感じたのは年齢なのか。寒くも季節は梅が紅白共に満開。続いて桜のたよりがそろそろ聞こえてくる頃、編集・印刷の手順を終えて会報一三六号が出来ました。桜と云えば城の越(上岩橋)の河津桜、地域の方々が育成されてここ数年の間に花を賞でる人々が増えていきます。京成沿線酒々井宗吾参道間に沿い、田の辺りをめぐって飾られています。

郷土研行事案内

平成22年4月～6月

<p>史談会</p>	<p>4月 休講</p>	<p>5月 1日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」⑥ 講師：高橋健一先生</p>	<p>6月 5日(土) 13:30 中央公民館会議室 「成田参詣記」⑦ 講師：高橋健一先生</p>
<p>野草観察会</p>	<p>4月27日(火) 雨天決行 (当日の間合せ 8:20～8:50 犬島まで *雨天の場合、交流サロン(井戸端)で資料による勉強会を行います。 観察場所 菊賀神社周辺 観察後、交流サロンにて昼食、勉強会。 参加費 200円 弁当、飲み物等各自持参 集合時刻・場所 9:25 JR酒々井駅東口(東酒々井側) 14:00頃 解散予定</p>		
<p>一泊見学会</p>	<p>「南房総方面」 5月11日(火)～5月12日(水) 参加費 22,000円(観光バス利用) 定員 40名 宿泊先 白浜温泉「グランドホテル太陽」(Tel. 0470-38-3331) *参加希望者が少ない場合、中止することがあります。 集合時刻・場所 8:15 中央公民館前広場 コース 第1日 中央公民館—佐倉IC—(東関東道・京葉道・館山道)—富津金谷IC—金谷—鋸山(ロープウェイ)…山頂…日本寺—保田<昼食>—館山—那古寺—白浜温泉(グランドホテル太陽)泊 第2日 ホテル—満徳寺(涅槃仏)—安房神社(安房一の宮)—富山—金谷<昼食>—富津金谷IC—木更津東IC—久留里城—姉崎袖ヶ浦IC—佐倉IC—中央公民館 帰着予定 18:00頃 (コースに一部変更の場合あり) *キャンセル 実施日の5日前までに、寺本 へご連絡下さい。 ◀申込受付▶ 4月9日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー</p>		
<p>町内史跡めぐり</p>	<p>「下岩橋・柏木・中川方面」(行程 約8km) 5月23日(日) 雨天中止 (当日間合せ 岡田まで 参加費 100円 弁当、飲み物等各自持参 集合時刻・場所 9:00 宗吾参道駅(下り方面・屋外階段下) コース 宗吾参道駅…大佛頂寺…柏木の双体道祖神…下岩橋の双体道祖神…新光寺…大鷲神社…中川青年館<昼食>…西蔵院…新堀の双体道祖神…水神社・中川の双体道祖神…京成酒々井駅 解散予定 15:30頃 (コースに一部変更の場合あり)</p>		
<p>名勝探訪</p>	<p>「心が落ちつく名利めぐり・北小金方面」 6月2日(水) 雨天代替日 6月7日(月)(当日間合せ 寺本まで 参加費 100円 弁当、飲み物、敷物等各自持参 集合時刻・場所 8:30 JR酒々井駅・構内改札口前(階段上) コース JR酒々井駅—成田駅—我孫子—北小金駅…本土寺…廣徳寺…大勝院…慶林寺…北小金駅—我孫子—成田駅—JR酒々井駅 帰着予定 17:00頃 (コースに一部変更の場合あり)</p>		